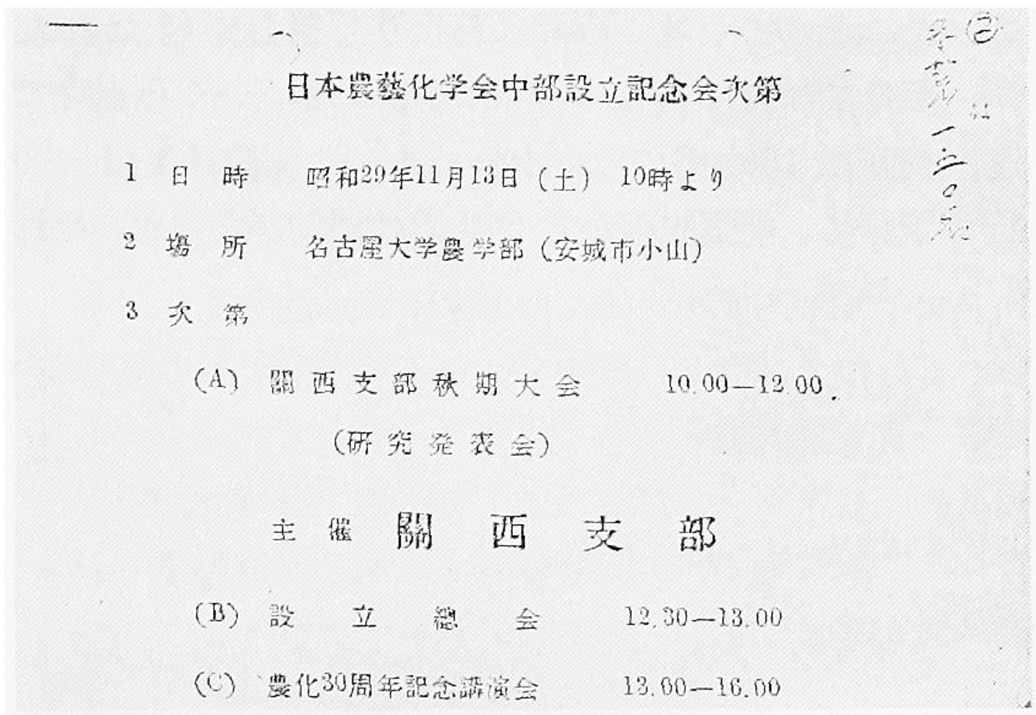
コラム ―――― その 10

中部支部設立のころ

1. 設立当時の経緯：昭和 25 年ごろ，岐阜，三重，静岡の各県にはそれぞれ農学部農芸化学科を擁する新制大学が設立されており，その大学の農芸化学科に属する教官は，たとえば中部農林学会の農芸化学部会で相互に研究を発表し，学問交流を深めていた．ちょうど昭和 26 年に名古屋大学に農学部が創設されることとなり，昭和 29 年夏ごろまでに農芸化学科の一応の完成がみられた．そのころ中部地方の地域の多くは関西支部に属していたが，一つはこの地区の研究者の自発的要望で，他は何といっても関西支部の積極的応援を得て，昭和 29 年 11 月 13 日（土）に中部支部が設立されることとなった．

これについては，中部支部設立準備委員会と関西支部との緊密なる計画のもとに準備が進められた．前者においては主に田村悌一先生と宗像　桂先生がその渉にあたり，後者においては関西支部の諸先生，とくに中島　稔先生がその実現に努力してくださった．まず中部支部設立記念会の開催場所は，結局当時安城市にあった名古屋大学農学部ときまった．そのころのことであり，交通の便はわるく，刈谷市よりバスやタクシーを臨時に仕立てて関西方面の参加者に来ていただくように準備した．そのころの安城市にはとくに取り立ててよい旅館はなく，参加者の宿泊の準備に苦労したにちがいない．

2. 設立当日：その日には，初めに関西支部大会（研究発表会）が 10 時より約 2 時間にわたって開催された．その時 13 件が発表されたが，前半は中部地区関係者の発表（8 件）に，後半はより遠方より来ていただく方の発表（5 件）に当てた．その後は中部支部主催として，設立総会が 12 時 30 分より 13 時にわたり開かれた．日本農芸化学会誌第 28 巻第 12 冊の記事にあるように，


日本農藝化学会中部設立記念会次第

1 日　時　昭和29年11月13日（土）10時より

2 場　所　名古屋大学農学部（安城市小山）

3 次　第

(A) 關西支部秋期大会　10.00—12.00

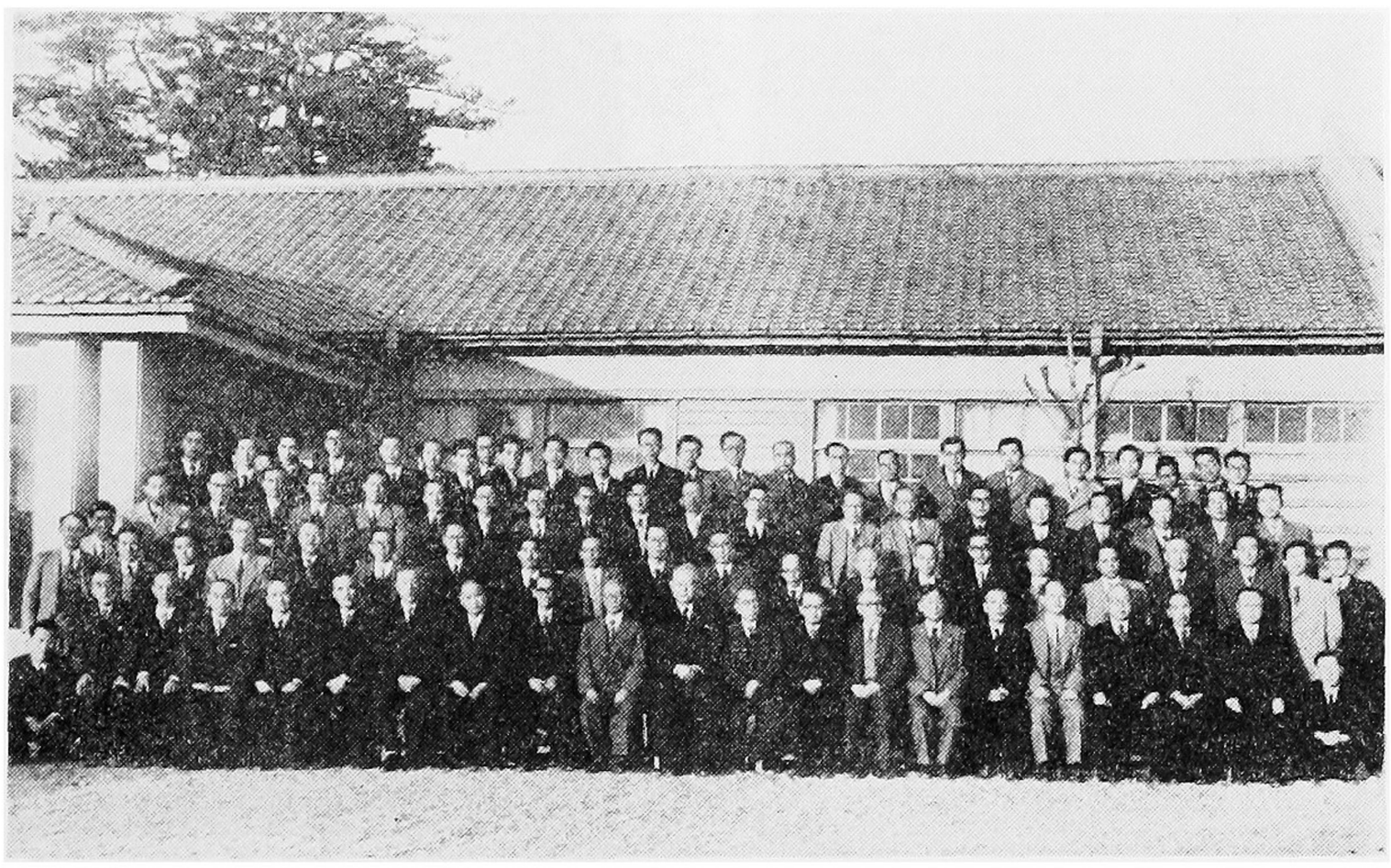
（研究発表会）

主催　關　西　支　部

(B) 設　立　總　会　12.30—13.00

(C) 農化30周年記念講演会　13.00—16.00

設立記念会のポスター



設立記念時の記念写真

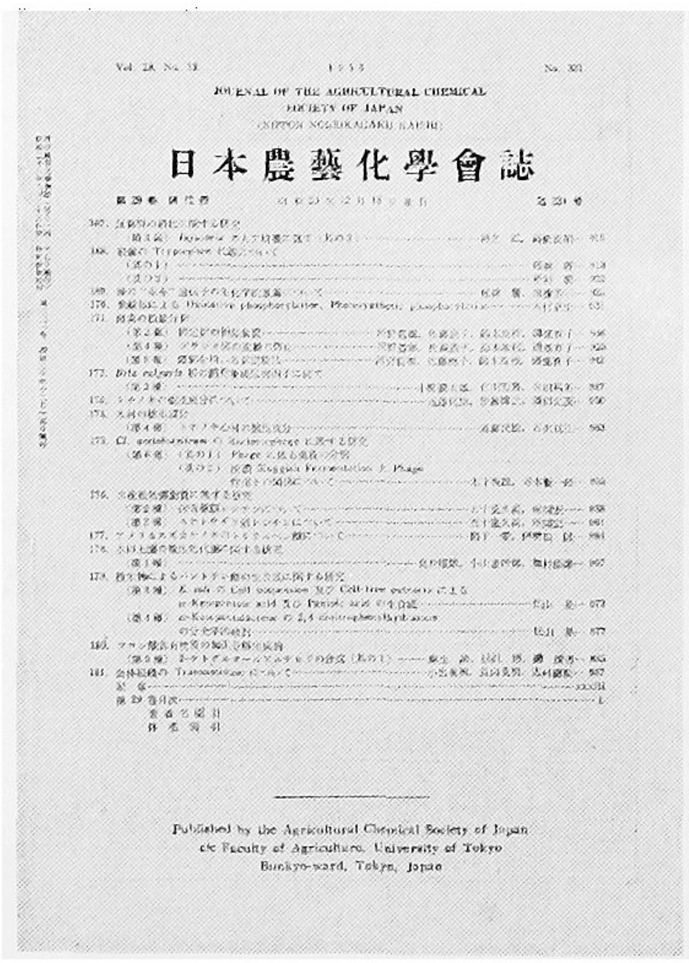
奥田　譲会長の挨拶，田村悌一先生の中部支部設立経過報告があり，支部会則が決定され，初代支部長として斎藤道雄先生が選出され，また支部評議員として高橋悌蔵，林　金雄，稲川次郎，六所文三，鳥井秀一，酒匂常仲，土井新二，田村悌一，大平敏彦氏等の，産官学を代表する 13 名の方々が選ばれた．また中部支部地域は，三重，愛知，静岡，岐阜，長野，福井，石川，富山の 8 県であることも認められた．そののち引き続いて，日本農芸化学会創立 30 周年記念講演会が中部支部設立をも記念して行われた．まず奥田　譲会長が開会の挨拶をされ，続いて斎藤道雄支部長より「畜産学の将来について」が，奥田東 京大教授より「コンゴーの第 5 回国際土壌学会議に出席して」が，坂口謹一郎東大教授より「醸造科学の近況」が話され，約 150 名の参加者に深い感銘を与えた．そして徳岡松夫名大農学部長の挨拶で閉会となった．そのあと約 2 時間にわたり懇親会が持たれたが，その参加費は 1 名 100 円であった．いくら当時でも，祝宴に 100 円では不十分であり，実際は 1 名 400 円の予算で，中部支部から 300 円の補助があった．それは寄付金によっており，これは宗像幹事の努力によっているものと思われる．

3.　その後の歩み：さて中部支部としての第 1 回講演会は，中部農林学会の農芸化学部会との合同により，同年の 11 月 20 日，三重大学で開催された．26 件の講演数があり，大変盛会であった（日本農芸化学会誌第 29 巻第 1 冊）．

さて中部支部が設立された折の会員数は 237 名で，その時の全国の会員数は 2,441 名となっている．一方昭和 59 年 2 月現在，中部支部会員は 1,175 名であり，また全国の会員数は昭和 59 年度で 10,604 名となっている．中部支部の会員数の増加はほぼ全国の会員数の増加に比例している．また中部支部の講演会は昭和 60 年度で 100 回を越えている．こうしたところに 30 年の歴史の重みを感じるが，一方中部支部が，日本農芸化学会の一翼としてその発展にさらに大きな寄与をするものと期待したい．

（瓜谷郁三）

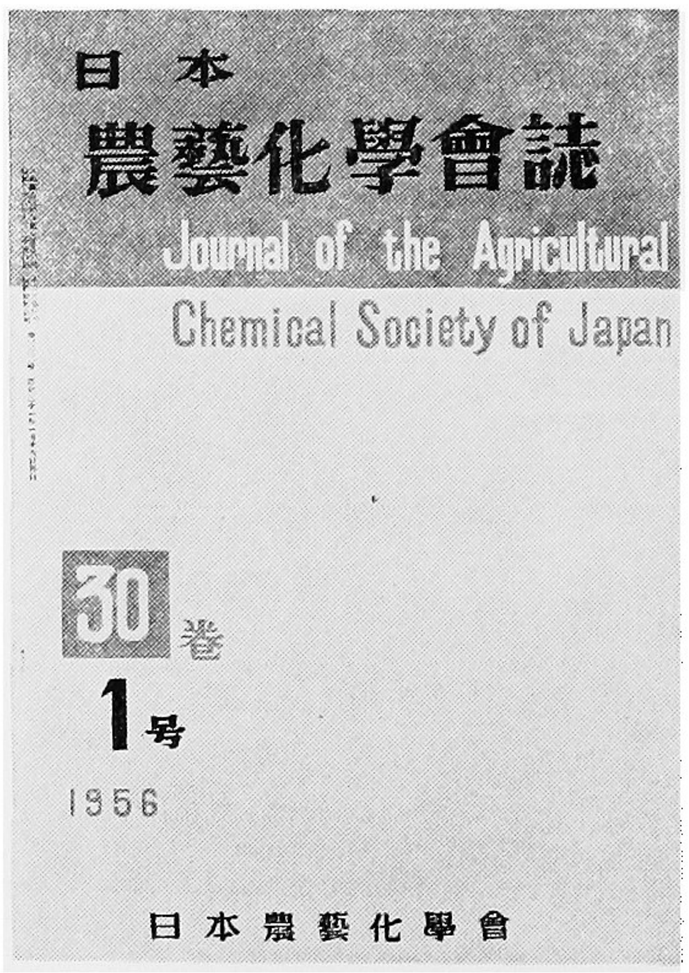
*　　*　　*　　*　　*


JOURNAL OF THE AGRICULTURAL CHEMICAL SOCIETY OF JAPAN

日本農藝化學會誌

Published by the Agricultural Chemical Society of Japan
c/o Faculty of Agriculture, University of Tokyo
Bunkyo-ward, Tokyo, Japan

第 29 巻（1955）の表紙



第 30 巻（1956）～第 34 巻（1960）まで